

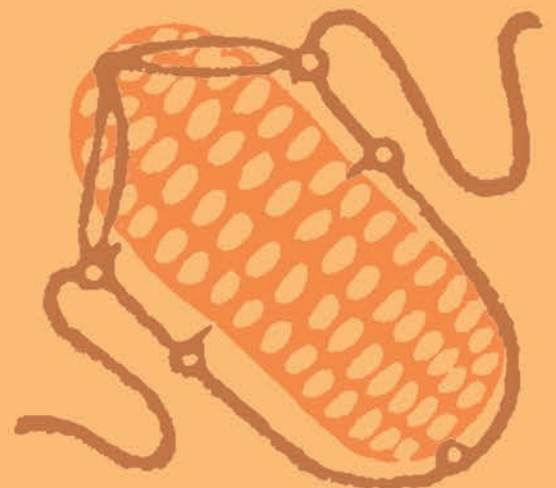
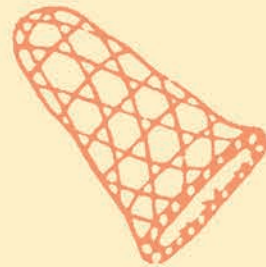
神奈川大学

# 日本常民文化研究所

Institute for the Study of Japanese Folk Culture  
Kanagawa University

2024—2026

創立100周年記念号 2



# 常民文化ミュージアム 博物館型研究統合に向けて



常民文化ミュージアム

日本常民文化研究所は、創立100周年を迎えるに当たって、その博物館機能を強化し、2023年3月10日に博物館法第29条にもとづく博物館相当施設として指定されました。その過程で誕生したのが常民文化ミュージアムです。

これにより、本研究所は博物館機能を有する研究所としてこれまでにない新たな博物館型研究統合を目指すこととなります。共同研究などの研究成果を企画展示やワークショップといった博物館事業を通して広く社会に発信するとともに、学芸員養成など大学教育にも利活用してゆきます。博物館型研究統合は、大学の付置研究所が博物館機能を有するからこそ可能となる研究と教育の融合であり、社会貢献のあり方です。

## Contents

日本常民文化研究所	1
組織／学部・大学院・資格課程への協力／活動の概要 学術交流／所員紹介／創立100周年記念	
共同研究	7
目的と概要／基幹・基盤・個別共同研究 2024年能登地震対応チーム／共同研究の成果	
常民文化ミュージアム	14
常設展示／収蔵資料展示／企画展示	
所蔵資料・図書	16
所蔵資料／所蔵資料のデジタル閲覧／所蔵図書	
民具マンスリー	18
刊行物	18
歴史と民俗／常民文化研究／叢書・報告書・目録ほか	
講座	20
常民文化研究講座／古文書修復実習／民具を語る	
利用案内	21

### 神奈川大学日本常民文化研究所 Web サイト

<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>

### 神奈川大学デジタルアーカイブ

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/research/digitalarchive/>



絵引原画 鳥獣戯画 長櫃／模写

## ご挨拶

### 常民研、次の100年に向けて

2021年、日本常民文化研究所は創設から100年の節目を迎えた。1921年、渋沢敬三によってアチックミュージアムソサエティとして産声をあげ、1925年にアチック・ミュージアム、1942年に日本常民文化研究所と改称、1950年に財団法人となった。そして創設60周年にあたる1981年には本学の付置研究所となり、神奈川大学日本常民文化研究所が発足した。2021年度からの5年間で100周年記念事業年間と位置付け、常民文化研究講座の開催や記念出版などの事業を展開している。

本研究所ではさらに、共同研究・共同利用の拠点として一層の充実をはかるとともに博物館機能の強化にも力を入れている。これからの100年、本研究所には職業や専門分野などの枠を超えたメンバーが集い、新しい地平を目指すことになるだろう。渋沢敬三の言葉をここに掲げ、本研究所の原点を再確認しておきたい。

「何を自分はアチックに見出さんとしてゝあるか。人格的に平等にして而も職業に専攻に性格に相異つた人々の力が仲良き一群として働く時その総和が数学的以上の価値を示す喜びを皆で共に味ひ度い。チームワークのハーモニアスデヴェロップメントだ。」  
(『アチックマンスリー』第1号 1935年)

神奈川大学日本常民文化研究所  
所長 関口 博巨



- ❖ 日本常民文化研究所は、日本民衆の生活・文化・歴史を多様な領域において調査・研究する、神奈川大学付置の学際的研究機関です。1921年に渋沢栄一の孫である渋沢敬三が創設した“アチックミュージアムソサエティ”を前身とし、1925年には“アチック・ミュージアム（屋根裏の博物館）”と改称、日本各地の生活文化、中でも民具や水産史の研究を中心に活動を進め、戦前・戦後の日本常民文化研究所を経て神奈川大学に招致され、2021年で創立100周年をむかえました。次なる100年を見据え、それまで担ってきた共同利用・共同研究の拠点としての機能を増進するとともに、2023年に本研究所は博物館相当施設に指定され、旧来の展示室を常民文化ミュージアムとしてリニューアルオープンしました。
- ❖ 渋沢敬三の「ハーモニアスデヴェロップメント」の精神を受け継ぎ、開かれた研究所として学内外の研究者にも研究交流の機会を提供すると同時に、これらの諸分野に関わる教育活動もおこなっています。

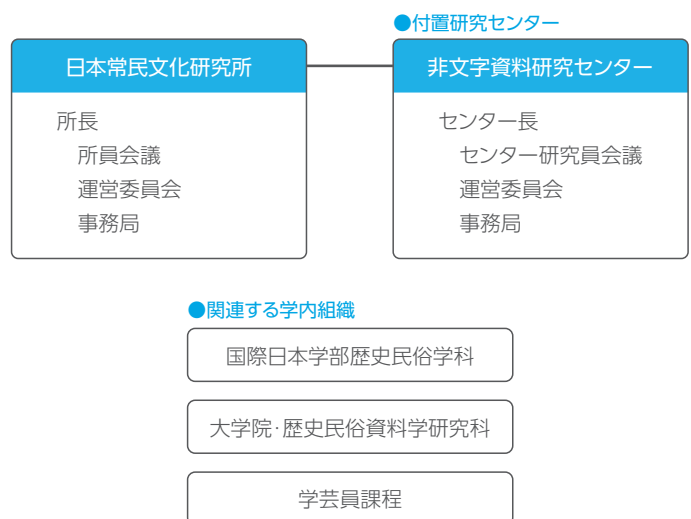


## 渋沢敬三と アチック・ミュージアム

渋沢敬三(1896-1963)は、実業家である渋沢栄一の孫であり第16代日本銀行総裁、幣原内閣大蔵大臣を務めました。1921年に「アチックミュージアムソサエティ」を創設、後に玩具、民具などの収集・展示を開始。多くの同人や研究員により民具研究、地域研究、水産史研究などの分野も推し進められ、敬三が提唱した「ハーモニアスデヴェロップメント」の精神を受け継ぎ、現在では本研究所にて活動が継続されています。



## 組織



## 学部・大学院・資格課程への協力

● 国際日本学部歴史民俗学科  
本研究所の伝統にもとづき大学院歴史民俗資料学研究科の体系的なプログラムにもつながる国際日本学部歴史民俗学科が2020年に誕生しました。日本の古代から現代まで時代の変化を探究する「歴史」、各地域の信仰伝承や儀礼伝承などを、フィールドワークを通して探究する「民俗」、それら文化資源を地域おこしや観光に活用する「文化創生」の各分野から学びを深めます。

● 大学院歴史民俗資料学研究科  
神奈川大学では歴史・民俗資料学の研究者を養成するために、1993年に本研究所を母体とする独立大学院「歴史民俗資料学研究科」、1995年に博士後期課程を開設しました。教育・研究活動は本研究所および非文字資料研究センターと密接に連携しておこなわれ、学生は研究会や資料調査への参加の機会も多く、所蔵資料等の利用が可能です。

● 学芸員課程  
本研究所は、1985年より神奈川大学に開設された学芸員課程に協力しています。2023年には常民文化ミュージアムが開設され、本研究所が博物館法第29条にもとづく「博物館に相当する施設」に指定されました。以降、博物館実習の館務実習生の受け入れをおこない、資格取得における授業や実習に、収蔵品の資料を提供しています。



古文書の目録取り作業



企画展「神大生の部屋」製作委員会の学生による壁面のイラスト制作

## 1. 研究成果の公開



基幹共同研究 便所の歴史・民俗に関する総合的研究 第12回公開研究会  
(2024年2月21日)

所員を中心とした共同研究の成果は、各種刊行物(論集・叢書・調査目録・調査報告等)・シンポジウム・展示・研究会ほかのかたちで、広く公開しています。研究所Webサイトでは、フィールド調査や研究会の最新報告を随時おこなっています。

## 2. 常民文化ミュージアム



常民文化ミュージアム

本研究所では、一貫して常民文化に関する研究をおこない、地方文書や民具といった歴史民俗資料を収集し、調査・研究をしてきました。こうして収集され、所蔵資料として整理・保存された歴史民俗資料は10万点に及びます。常民文化ミュージアムでは、これらの歴史民俗資料を公開するとともに、共同研究の成果も展示を通して社会に還元をいたします。

## 3. 資料の収集と研究・公開

共同研究において収集した資史料の整理・目録化をおこなっています。資料所蔵者の方々のご理解・ご協力のもとに、当該資料を確実に後世に伝え、将来の研究において有効に活用するための基盤を作る作業です。また、本研究所で所蔵している歴史民俗資料の整理・目録化をおこない、順次デジタルアーカイブにて公開を進めています。



古文書のデジタル撮影

## 4. 研究会



第138回研究会(2024年2月21日)

本研究所は、1983年より年数回、所員相互の検証・批判を経た研究成果を共有するため、公開形式で「神奈川大学日本常民文化研究所研究会」を開催しています。

所員、および客員・特別研究員による専攻分野の研究発表や、研究水準の向上を図るために、所外や海外の研究者にも発表を依頼しています。毎回テーマを新たに設定することで、異なる研究分野との交流や最新の研究動向を発表する場ともなっています。継続的におこなわれ、開催回数は通算139回(2024年5月現在)となり、常に関連研究の発展と向上に努めています。

## 5. 非文字資料研究センター

神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の5年間の研究事業を継承・発展させる組織として神奈川大学日本常民文化研究所に付置されました。

文字以外の人間諸活動の表現形態を対象に調査研究、資料収集の実施、世界への発信を目的としています。



「チョコレートと兵隊」国策紙芝居コレクション  
(非文字資料研究センター所蔵)

さまざまな地域・分野の諸機関と連携した調査研究も、本研究所の重要な活動となっています。また、海外の研究機関とも常民文化研究の相互理解と交流を深めるために、学術交流をおこなっています。

## 横浜市歴史博物館

神奈川大学と同じ横浜市内にある博物館として、さまざまな事業での相互協力をおこなっています。2002年の「屋根裏の博物館—実業家渋沢敬三が育てた民の学問」、2017年に「和船と海運—江戸時代横浜の船路と和船のしくみ」、2021年に「布 うつくしき日本の手仕事」の展覧会を共同開催しました。



共同展覧会「布 うつくしき日本の手仕事」

## 輪島市教育委員会

2012年より輪島市教育委員会からの受託研究として、古文書の調査や民具の調査をおこなってきました。そのほか、所員による講演など、さまざまな形で協力関係が継続されています。

## 三宅村教育委員会

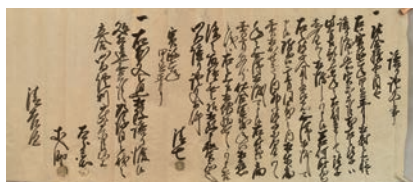
2016年より三宅村からの受託研究として、三宅村郷土資料の公開・保存に関わる事業を進めるために調査、整理作業、三宅島郷土資料館の資料目録の作成を進めています。また、三宅村の生業（農業・漁業・その他）にかかわられている方々への聞き書き調査の報告書や伊豆七島に関連する文献資料である「七島文庫」の目録などの、冊子を刊行しています。



三宅島郷土資料館の民具調査

## 水産研究・教育機構水産資源研究所

1949年～54年度に実施された「漁業制度資料調査保存事業」により収集された古文書等の再整理作業を、2001年度より水産総合研究センター（2016年度より水産研究・教育機構に変更）からの受託研究として実施しました。これまで12冊の『水産研究・教育機構所蔵古文書目録』と2冊の概要目録を刊行しています。



和歌山県湯浅の松宮太郎兵衛家文書

## 日本民具学会

同学会は、財団法人日本常民文化研究所が開催していた民具研究講座の活動の中から1976年に設立され、相互に協力しながら民具研究を推進しています。

## 学術交流協定

本研究所では下記の研究機関と学術交流協定を締結し、シンポジウムや研究会、講演会などへの招聘や派遣、研究成果および研究動向などの情報交換、調査研究協力などをおこない、交流を促進することにより国際的なネットワークを形成しています。



台北芸術大学学長一行(2023年3月)



国立民族学博物館 館長との会談(2020年2月)

- 国立台北芸術大学文化資源学院 2020年3月28日
- 国立民族学博物館 2020年3月26日
- 国立台湾海洋大学海洋文化研究所 2017年6月28日
- 浙江海洋大学中国海洋文化研究中心 2016年5月25日
- 韓国中央大学校韓国文化遺産研究所 2012年7月14日
- サンパウロ大学日本文化研究所 2012年4月1日
- 韓国国立木浦大学校島嶼文化研究院・島の人文科学研究団 2011年4月1日
- 慶北大学校嶺南文化研究院 2009年12月28日
- 釜慶大学校海洋文化研究所 2009年12月25日
- 中国海洋大学海洋文化研究所 2009年11月24日
- 上海海洋大学経済管理学院・海洋経済文化研究センター 2009年11月20日

## 東アジア島嶼海洋文化フォーラム

2012年度より韓国・中国・日本の海洋文化に関する研究機関が中心となり発足した「東アジア島嶼海洋文化フォーラム」は、2013年度から各参加校が主催となっています。2023年度には韓国木浦市にて木浦大学校主催で第10回のフォーラムが、「人新世における島の人文主義地理学の変遷と海域の再編」をテーマとして開催されました。



第5回東アジア島嶼海洋文化フォーラム「海洋文化の多様性」(愛媛県松山市/2017年12月) 神奈川大学国際常民文化研究機構/日本常民文化研究所主催

## 新垣夢乃 ARAKAKI Yumeno

[所属] 神奈川大学国際日本学部 助教 [学位] 博士(学術)

[専門分野] 民俗学

[研究業績]

1. 「なにが台湾の「海女」を沖へと押し出したのか?—日本統治期初期のテングサ資源をめぐる葛藤と新秩序の形成から—」『国際常民文化研究叢書15—台湾の「海女(ハイルー)」に関する民族誌的研究』神奈川大学国際常民文化研究機構 2022年
2. 「慣行専用漁業権下における反慣行の実践—新潟県佐渡市柳沢のタコ漁場の事例から—」『地方史研究』414 地方史研究協議会 2021年

## 内田青蔵 UCHIDA Seizo

[所属] 神奈川大学建築学部 特任教授 [学位] 工学博士

[専門分野] 近代日本建築史 近代日本住宅史

[研究業績]

1. 共著『住まいの建築史』創元社 2023年
2. 「明治四三—四四(1910-1911)年の『東京朝日新聞』連載記事「時代の家屋」に見られる住宅間取りについて」『常民文化研究』第1巻 神奈川大学日本常民文化研究所 2023年

## 大川 啓 OKAWA Hiromu

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授 [学位] 博士(史学)

[専門分野] 日本近現代史

[研究業績]

1. 「民衆運動と近代社会」『日本史研究』690号 日本史研究会 2020年
2. 「近代日本における名望と地域福祉の社会史」『歴史学研究』929号 歴史学研究会 2015年

## 小熊 誠 OGUMA Makoto 学長(2025年3月まで)

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授 [学位] 博士(文学)

[専門分野] 民俗学

[研究業績]

1. 『沖縄における門中の歴史民俗的研究』第一書房 2023年
2. 編著『〈境界〉を越える沖縄』森話社 2016年

## 印牧岳彦 KANEMAKI Takahiko

[所属] 神奈川大学建築学部 特別助教 [学位] 博士(工学)

[専門分野] 建築史 意匠

[研究業績]

1. 『SSA:緊急事態下の建築ユートピア』鹿島出版会 2023年
2. 「コーウィン・ウィルソンによる「移動住宅」の提案とその思想的背景」『日本建築学会計画系論文集』第85巻774号 日本建築学会 2020年

## 姜明采 KANG Myungchae

[所属] 神奈川大学建築学部 特別助教 [学位] 博士(工学)

[専門分野] 日本近代建築史 韓国近代建築史

[研究業績]

1. 共著「復興記念館の建設経緯について—横網町公園内建造物に求められた『日本趣味』について—」『日本建築学会計画系論文集』第84巻757号 日本建築学会 2019年
2. 共著「震災記念堂(1930年竣工)の建設経緯について」『日本建築学会計画系論文集』第82巻734号 日本建築学会 2017年

## 後田多 敦 SHIITADA Atsushi

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授 [学位] 博士(歴史民俗資料学)

[専門分野] 日本近代史 琉球史

[研究業績]

1. 『救国と真世—琉球・沖縄・海邦の史志』琉球館 2019年
2. 『「海邦小国」をめざして—「史軸」批評による沖縄「現在史」』出版舎Mugen 2016年

## 周 星 ZHOU Xing

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授 [学位] 法学博士

[専門分野] 中国民俗学 中国文化人類学

[研究業績]

1. 共著『民俗学の思考法』慶應義塾大学出版会 2021年
2. 共著『現代民俗学的視野與方向—民俗主義・本真性・公共民俗学・日常生活』商務印書館 2018年

## 須崎文代 SUZAKI Fumiyo

[所属] 神奈川大学建築学部 准教授 [学位] 博士(工学)

[専門分野] 住宅史 台所史 近代建築史

[研究業績]

1. 訳著『キュージーヌ—フランスの台所近代史』鹿島出版会 2024年
2. 共著『奇跡の住宅—旧渡辺甚吉邸と室内装飾』LIXIL出版 2020年(チューダー様式の住宅建築の解体・保存・移築プロジェクト)

## 角南聡一郎 SUNAMI Soichiro

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授 [学位] 博士(文学)

[専門分野] 仏教民俗学 物質文化研究

[研究業績]

1. 「日式表札の成立と越境—旧日本植民地における諸相とその後」『帝国日本における越境・断絶・残像—モノの移動』風響社 2020年
2. 「寺院に伝わる怪異なモノ—仏教民俗学の視座」『アジア遊学』239 勉誠出版 2019年

## 関口博巨 SEKIGUCHI Hiroo 所長

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授 [学位] 博士(歴史民俗資料学)

[専門分野] 日本近世史 古文書の整理と修復

[研究業績]

1. 『近世村落の領域と身分』吉川弘文館 2021年
2. 『古文書を学ぶ—市川海老蔵の証文から』御茶の水書房 2021年

## 泉水英計 SENSUI Hidekazu 運営委員

[所属] 神奈川大学経営学部 教授 [学位] DPhil

[専門分野] 社会人類学

[研究業績]

1. 編著『近代国家と植民地性—アジア太平洋地域の歴史的展開』御茶の水書房 2022年
2. 共編著『よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像—琉球列島米国民政府(USCAR)の時代』不二出版 2020年

**高城 玲** TAKAGI Ryo

[所属] 神奈川大学経営学部 教授 [学位] 博士(文学)

[専門分野] 文化人類学 東南アジア(タイ)研究

[研究業績]

1. 共著 *Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblages*, Chiang Mai: Silkworm Books, 2022
2. 共編『DVDブック 甦る民俗映像—渋沢敬三と宮本馨太郎が撮った1930年代の日本・アジア』岩波書店 2016年

**巽 昌子** TATSUMI Masako

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授 [学位] 博士(人文科学)

[専門分野] 日本中世史

[研究業績]

1. 「九条家の相続にみる「処分状」の変遷と衰退」『史学雑誌』第122編第8号 史学会 2013年
2. 編著『コロナ禍で考えた「継承」—デジタル化? デジタルか?—』雄山閣 2023年

**道用大介** DOYO Daisuke

[所属] 神奈川大学経営学部 准教授 [学位] 博士(工学)

[専門分野] 経営工学 デジタルファブ리케이션

[研究業績]

1. 「社会の欲求レベルの可視化に関する研究」『神奈川大学国際経営研究所 Project Paper』59 神奈川大学国際経営研究所 2023年
2. 「Additive Manufacturing がサプライチェーンに及ぼす影響に関する研究—データが動く時代のサプライチェーン」『国際経営論集』62 神奈川大学経営学部 2021年

**中林広一** NAKABAYASHI Hirokazu 運営委員

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授 [学位] 博士(文学)

[専門分野] 中国史

[研究業績]

1. 『中国日常食史の研究』汲古書院 2012
2. 共編著『春耕のとき—中国農業史研究からの出発』汲古書院 2015

**平井 誠** HIRAI Makoto

[所属] 神奈川大学人間科学部 教授 [学位] 博士(理学)

[専門分野] 人文地理学 地誌学

[研究業績]

1. 「人口集積とその動向」『日本経済地理読本』(第10版) 東洋経済新報社 2024年
2. 「横浜を歩いて地域人口の特徴を考える」『〈地理を学ぼう〉地理エクスカッション』朝倉書店 2015年

**平山 昇** HIRAYAMA Noboru

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授 [学位] 博士(学術)

[専門分野] 日本近代史 観光史

[研究業績]

1. 『初詣の社会史—鉄道が生んだ娯楽とナショナリズム』東京大学出版会 2015年
2. 『鉄道が変えた社寺参詣』交通新聞社新書 2012年

**廣田律子** HIROTA Ritsuko

[所属] 神奈川大学経営学部 教授 [学位] 博士(文学)

[専門分野] 中国祭祀儀礼 中国祭祀芸能 中国民俗学

[研究業績]

1. 編著『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 2016年
2. 『中国民間祭祀芸能の研究』風響社 2011年

**前田禎彦** MAEDA Yoshihiko 運営委員

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授 [専門分野] 日本古代史

[研究業績]

1. 「中世二神氏と二神島」『歴史と民俗』35 平凡社 2019年
2. 「古代の裁判と秩序」『岩波講座』日本歴史5 古代5 岩波書店 2015年

**丸山泰明** MARUYAMA Yasuaki 運営委員

[所属] 神奈川大学国際日本学部 准教授 [学位] 博士(文学)

[専門分野] 民俗学

[研究業績]

1. 『渋沢敬三と今和次郎—博物館的想像力の近代』青弓社 2013年
2. 『凍える帝国—八甲田山雪中行軍遭難事件の民俗誌』青弓社 2010年

**安室 知** YASUMURO Satoru

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授 [学位] 博士(文学)

[専門分野] 民俗学(生業論 環境論) 物質文化論

[研究業績]

1. 『日本民俗分布論—民俗地図のリテラシー』慶友社 2022年
2. 『都市と農の民俗—農の文化資源化をめぐる』慶友社 2020年

**山本志乃** YAMAMOTO Shino

[所属] 神奈川大学国際日本学部 教授 [学位] 博士(文学)

[専門分野] 民俗学(交通交易論) 旅行文化論

[研究業績]

1. 『団体旅行の文化史—旅の大衆化とその系譜』創元社 2021年
2. 『「市」に立つ—定期市の民俗誌』創元社 2019年

**吉澤達也** YOSHIZAWA Tatsuya

[所属] 神奈川大学人間科学部 教授 [学位] 博士(工学)

[専門分野] 実験心理学 知覚心理学 視覚科学 色彩心理学

[研究業績]

1. “Hemispheric asymmetry of chromatic motion perception”  
Vision Research 2022
2. *John Dalton's Colour Vision Legacy* Taylor & Francis 1997



- 2024年6月時点の情報です。所員・客員研究員・特別研究員の最新情報は研究所 Web サイトをご覧ください。

# 創立 100 周年記念

2021年、神奈川大学日本常民文化研究所は創立100周年を迎えました。研究所のはじまりは、渋沢敬三(1896~1963)がまだ東京帝国大学の学生だった頃に、自宅の物置小屋の屋根裏に友人たちとつくった小さな博物館でした。大学卒業間もない1921年の5月、渋沢は友人たちと相談し、学問研究のための同好会「アチックミュージアムソサエティ」を設立します。1925年には「アチック・ミュージアム」に改称しました。

渋沢は仲間たちとともに、普通の人々、すなわち常民の生活文化についての歴史学や民俗学の研究をおこないます。銀行の仕事の合間に取組む学問を、世界の人類に貢献する本物の学問にしようとする情熱が渋沢を動かす原動力でした。



アチック・ミュージアムで民具を付けた同人  
目録番号：ア-78-12

1942年には日本常民文化研究所と改称します。1981年に神奈川大学に招かれて大学の付置施設となり、1993年には歴史民俗資料学専攻、2020年には国際日本学部歴史民俗学科を開設します。2023年には、旧来の展示室を常民文化ミュージアムとしてリニューアルオープンしました。屋根裏からはじまった研究所は、国内外の研究者と交流し、さらには日本人のみならず留学生も学ぶ研究教育機関に成長しました。

神奈川大学日本常民文化研究所は2021年から2025年までの5年間にわたり、100周年を記念した講座の開催や100周年記念刊行物の発行をおこないます。

屋根裏に宿った知的好奇心は、次の100年に向けて成長しつづけています。



アチック・ミュージアム(1920年代後期)  
目録番号：写4-1-7-2

## 〈記念事業〉

### 関連シンポジウム

- 常民文化研究講座 創立100周年記念事業 日本常民文化研究所の100年 渋沢敬三と日本の近代—越境し総合する知の100年(第25回 2021年12月4日)
- 物質文化にみる遠い過去／近い過去—民具研究と考古学(第26回 2022年12月3日)
- 生活世界の史科学(第27回 2023年12月9日)

### 博物館の開設

- 博物館に相当する施設の指定(2023年3月10日)
- 常民文化ミュージアムの開設(2023年3月13日)

### 出版

- 『常民文化研究』の創刊 第1巻(2023年) 以後、毎年1~2冊刊行
- 『古文書修復講座』(勉誠出版 2024年3月)
- 『書物学 渋沢敬三と祭魚洞文庫(仮)』(勉誠出版 近刊)

### デジタル公開

- 創立100周年記念の特設ページを研究所Webサイトに開設(2021年7月16日)
- 100年の歩み年表(神大時代)を公開(2023年9月1日)
- 漁業図データベースの開設(2024年度公開予定)

### 記念事業関連シンポジウム ポスター



第25回 渋沢敬三と日本の近代



第26回 物質文化にみる遠い過去／近い過去—民具研究と考古学—



第27回 生活世界の史科学



アチック・ミュージアム新館(1933年竣工)  
目録番号：河1-6-15

- 特設ページと100年の歩み神大時代の年表を閲覧できます。



特設ページ



第27回 開催風景

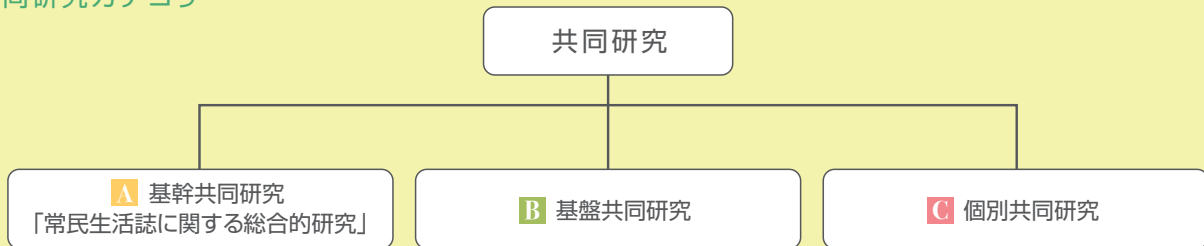




## 目的と概要

- ❖ 本研究所の研究活動は渋沢敬三が創設したアチック・ミュージアム以来、単なる机上の分析に留まらず、現地調査・フィールドワークを踏まえた研究・分析であるところに特徴があります。
- ❖ 共同研究は、以下の三つのカテゴリーを設定して地域の生活文化を全体として明らかにすべく、学際的な共同研究を進めています。
- ❖ 気仙沼大島の文化振興と発信を担う研究拠点事業と受託研究も共同研究として推進しています。

### 共同研究カテゴリー



### A 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」

本研究所の設立の理念にもとづき、中長期的展望のもと、先端的・学際的な共同研究をおこないます。研究所の所員が全体として取り組む研究活動として位置づけています。

#### ● 「常民生活誌に関する総合的研究」の推進

本研究所の基幹共同研究は、「常民生活誌に関する総合的研究」の推進を目指しています。衣食住を中心とした日常生活をテーマに、歴史や民俗を含めた幅広い観点から、現地調査によって得た諸資料を収集・整理し、研究を進めます。

- “日常茶飯”—日本人は何を食べてきたか
- 布の製作と利用に関する総合的研究
- 便所の歴史・民俗に関する総合的研究



基盤共同研究 渋沢敬三に関する総合的研究  
本研究所における祭魚洞文庫旧蔵古文書の調査

### B 基盤共同研究

本研究所の基本方針である博物館機能の強化につながる、所蔵資料をもとにした共同研究をおこないます。

- 日本常民文化研究所所蔵の筆写稿本・古文書・絵図を用いた若狭湾沿岸海村とその周辺村落の生業をめぐる軌轢・交流・交易に関する研究(公募による共同研究)
- 渋沢敬三に関する総合的研究
- エヴォラ屏風文書の研究
- 日本常民文化研究所所蔵資料からみるフィールド・サイエンスの史的展開
- 海域・海村の景観史に関する総合的研究

#### ● 基盤共同研究の公募

本研究所では1982～2014年度まで、特定テーマを設定し、テーマにそくした研究者を所外から選び、そのテーマに関する調査研究の委託や研究奨励を実施していました。また、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に認定された2009～2019年度までは、公募型共同研究を推進し、2022年度からはこの公募型共同研究を引き継ぎ、所員と所外研究者との共同代表による所蔵資料利用型の研究を推進しています。毎年4月に研究所Webサイトで募集します。

### C 個別共同研究

個別の課題にもとづき、中短期的展望のもと、将来の「基幹」「基盤」研究になり得る萌芽的共同研究として位置づけています。

- 歴史民俗資料とデジタルファブリケーションの可能性の研究



第4回公開研究会 丹羽英二氏の発表

期間:2020年～ 代表者:周星

[調査地域]日本および東アジア(中国大陸・韓国・台湾)

[研究目的]

「和食」が世界無形文化遺産に登録されたが、多様な郷土食だけを見ても、和食とは? の定義付けは難しい。本研究では、日本における常民の幅広い食生活と「和食」との関係性を明らかにするため、日本人は何を食べてきたのかを多角的、また異文化から見た「和食」の特長などを検討する。

庶民の日常、常民文化の根幹はいつの時代、どの地域においても衣・食・住が基本となる。本研究では、現在、日本国民の食生活が極めて多様化する中で、従来の通説を再検討し、食材のみならず、料理法、調味料、外来食、食事作法、食器など広く食事文化全般を当たり前の「日常茶飯の文化」の事実や表象としてとらえる。当然、お茶やお酒などのような「嗜好」も非・日常の飲食文化として取り上げられる。参加メンバーのテーマとして、「米文化の再検討・餅の多様性」、「食をめぐる物質文化・民具」、「食の比較文化」、「日常・非日常の食文化」、「グローバル時代と食文化」、「郷土料理とは何か」などの課題が展開されている。



第5回公開研究会の会場風景



「渡部つとむコレクション」から庄内・津軽・南部の「刺し子」を紹介した企画展を開催

期間:2019年～ 代表者:新垣夢乃

[調査地域]日本国内を中心とする織物や原材料に関する地域

[研究目的]

布は人の生活にとって欠くことのできないものである。用途によってさまざまな材料から糸が紡がれ、布に織られてきた。本研究はさまざまな材質の糸が布となり、それがどのように利用されたかを総合的に研究する。利用の中心は衣類およびそれに付属する布製品(袋物、手ぬぐい)などである。衣類に使用される布は時代や使用目的によって変化する。また、布の利用は衣類以外にも多岐にわたっており、使用目的によって必要とされる素材も変化する。本研究は素材による布の性質の違いが、その利用にどのような影響を与えたかを、総合的にとらえることを目的とする。

各所員および学内外の研究者の協力を得て調査研究を進める。データを統合的に整理し、他機関の研究者にも利用可能な文化資源として提供するとともに、学内における教育資料、展示施設を利用した普及事業への活用が期待される。



小裂細工(袋物)の撮影

A

## 基幹共同研究「常民生活誌に関する総合的研究」 便所の歴史・民俗に関する総合的研究



近世書物にみる便所の妖怪(『今昔画図続百鬼』1779(安永8)年)

期間:2019年～ 代表者:須崎文代

[調査対象] 文献史料および国内外の住宅遺構における便所の空間・設備、糞尿の扱いと衛生論に関する調査研究

[研究目的]

本共同研究は、「便所」と糞尿の扱いの歴史と民俗に関して、歴史学、民俗学、建築学からの視点を中心として、総合的に調査研究をおこなうものである。

人間の生活に密接に関わる「便所」と生物の糞尿の扱いは、国内や世界各地の生活文化の多様性のなかでさまざまな風習・思想を有している。本研究ではこうした地域特有の便所空間や糞尿処理、あるいは衛生観や穢れの思想について検討し、人間生活の変容の一側面を明らかにすることを目的としている。

本研究は、(1)関係史料の収集・整理、(2)国内外の住居の遺構調査(フィールドサーベイ)の2点を中心に調査分析をおこなう。さらに(3)上記の歴史学、民俗学、建築学ほか、社会学、地質学など関連分野の専門家による講演会を実施し、多様な分野・地域・時代からみた便所の歴史・民俗を複合的に検討する。



大正期における便所の水洗化の啓蒙ポスター「今少し文化設備に親しめ」(1919(大正8)年開催 文部省生活改善展覧会のポスター 出典:国立科学博物館)

B

## 基盤共同研究 日本常民文化研究所所蔵の筆写稿本・古文書・絵図を用いた 若狭湾沿岸海村とその周辺村落の生業をめぐる軋轢・交流・交易に関する研究



第1回 福井県の筆写稿本調査(2023年12月)

期間:2023年10月～2027年3月 共同代表:長谷川裕子 関口博巨

※本共同研究は、2023年度公募にて採択されたものです。

[調査地域] 若狭湾沿岸地域の海村・山村・農村、および交易・交流のある地域

[研究目的]

本研究は、複合的な生業を有する海村の特質と、その生業・生活を支えていた近隣山村や農村、地方都市との交易・交流、および軋轢・紛争の実像を、若狭湾沿岸を素材に解明することを目的としている。当該地域は、中核都市である京都や奈良への物資供給地として重要な場所にある。しかも、中世から近代に至る古文書が数十万点規模で現存し、生業・環境・村構造の地域性や周辺地域との諸関係が追究できるほぼ唯一の地域である。そうした若狭湾沿岸地域に現存する古文書や、本研究所に所蔵されている筆写稿本・古文書・絵図を悉皆的に収集しつつ、現地調査を実施することにより、多面的に取り結ばれる村々の交易圏や軋轢の内実、およびその要因や形成・変化の過程を学際的に解明する。

本研究において収集した古文書や絵図、および現地調査の成果は、デジタル化・目録化を進め、研究所Webサイトにおいて公開するとともに、各研究機関と連携しながら広く社会に公開していく。



筆写稿本No.691「組屋こすな家文書」(筆写部分)

## B

## 基盤共同研究

## 渋沢敬三に関する総合的研究



朝鮮・洛月島の金支鎧をアチックに迎えるの記念写真(目録番号:河岡1-26-4-A)



パリにて藤田嗣治夫妻と(目録番号:河岡1-30-7-11-2)

期間:2022年 代表者:丸山泰明

[調査地域]日本を中心とする渋沢敬三に関連する場所・機関

[研究目的]

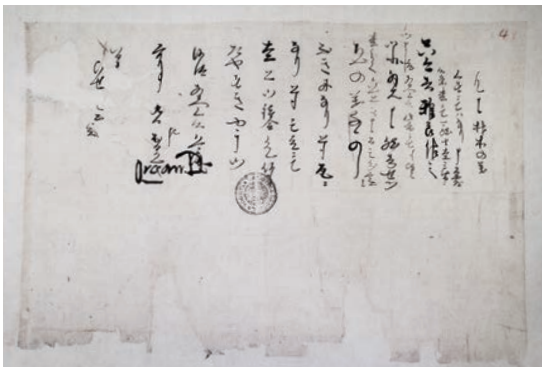
渋沢敬三は本研究所の前身であるアチック・ミュージアムを主宰した学者であるとともに、祖父栄一の跡を継ぎ政財界の要職も務めた実業家でもある。渋沢敬三は少年の頃は動物学者に憧れるものの、大学では経済学部で工業の歴史を研究した。銀行や会社の経営に関わりながら産業の育成に努め、その傍らで歴史学や民俗学を研究する。日本銀行総裁や大蔵大臣として戦中・戦後の財政と金融に取り組み、旅行や外交を通じて国際的に交流し、理学や工学・医学の発展にも寄与した。このような学問と実業にまたがり、諸分野を越境し横断するスケールをもつ人物の思想や事績について研究することを通じて、これからの時代における知や活動のあり方への指針を得るとともに、日本の近代の一面について考察する。

具体的には、書物の収集や出版・編集といったような、渋沢敬三のものの見方や考え方、事業を構想・計画し実現していく方法について、各自の関心にもとづきながら意見を交わし議論を深める共同研究を進めている。研究の成果を発表・還元することによって、本研究所に限らず学術活動全般の参考となることが期待できる。

## B

## 基盤共同研究

## エヴォラ屏風文書の研究



エヴォラ屏風文書レプリカ

期間:2020年～ 代表者:関口博巨

[研究目的]

本研究は、本学所蔵のエヴォラ屏風文書(レプリカ)の研究を基礎に海外に所在する屏風下張り文書を資料学的に研究することを目的としている。海を渡った屏風とその下張り文書をあわせて資料化することによって、文物の移動や人びとの交流史・関係史に新たな知見を拓こうとするものである。

エヴォラ屏風文書は、20世紀初頭にポルトガルのエヴォラで発見された屏風下張り文書であり、豊臣秀吉側近の安威氏関係文書、キリスト教布教関係の記録など、1600年前後の史料群である。

またポルト市のソアレス・ドス・レイス国立博物館所蔵の南蛮屏風には、京都の菓子屋「菱屋」が所蔵していた近世中期の古文書(約2,000枚)が下張りされていることが判明している。本研究では、ポルトガルへ伝来したこれらの屏風文書の解読を進め、目録作成やデジタルデータ化を試みたい。

※2021年に個別共同研究「ポルト屏風下張り文書等の予備的研究」から、研究カテゴリ・研究名を基盤共同研究「ポルト・エヴォラ屏風文書の総合的研究による新領域の開拓」に変更。

※2021年7月9日より、科研費 挑戦的研究(開拓)「ポルト南蛮屏風の総合的研究による新領域の開拓」としてJSPS 科研費21K18119の助成を受けた(2021年7月9日～2024年3月31日)。

※2024年4月1日より基盤共同研究「エヴォラ屏風文書の研究」に変更。



エヴォラ屏風文書(レプリカ)の収納箱(一部)

## B

## 基盤共同研究

## 日本常民文化研究所所蔵資料からみるフィールド・サイエンスの史的展開



第12回公開研究会「岩倉市郎の喜界島調査—その表と裏—」  
전경수(全京秀)氏

期間:2016年～ 代表者:泉水英計

[調査地域] 本研究所所蔵の民族学振興会資料、アチック写真・フィルムが  
発生した過去の調査活動の対象となった地域

[研究目的]

本研究所が所蔵する民族学振興会資料とアチック写真・フィルムを主  
な基礎資料とし、研究会と共同調査をおこなう。具体的には、資料が発  
生した過去の調査活動の対象となった地域で追跡調査をおこない、関  
連情報を収集するとともに、資料を共有または分有する諸機関(宮本記念  
財団・渋沢史料館・国立民族学博物館)との連携の下で資料の有効活用を  
進め、本邦における民俗学、民族学・文化人類学、農村社会学、地理学、  
地域研究といったフィールド・サイエンスの展開について新しい歴史像を  
提示することを目指す。

各所員が学問分野、対象地域のいずれかの専門に応じて適宜現地調  
査をおこない、順次、この作業を通じて関連するデータを統合的に整理し、  
再編集等の加工を施し他機関の研究者にも利用可能な文化資源として  
提供することが期待される。



川田順造資料よりフィールドノート

## B

## 基盤共同研究

## 海域・海村の景観史に関する総合的研究



旧由良村・三瀬村・小波渡村烏賊釣漁場図(山形県)

期間:2015年～ 代表者:安室 知

[調査地域] 本研究所所蔵の漁場図に描かれている地域、及び関連する  
海域・海村

[研究目的]

本共同研究は、常民研において開所以来取り組んできた海域・海村  
史の研究蓄積を継承し発展させるものである。海は水産物だけでなくさ  
まざまな資源を生み出す。その開発・利用に当たっては、人・物・情報  
の行き来を促し、そうした営みを通して社会知や民俗知が膨大に集積され  
る空間となっている。反面、負の記憶として海域の利用をめぐる個人  
や村のレベルから国際的な問題まで対立や紛争を生んできた。また海  
と対峙する海村では、災害や大事故が歴史的に繰り返されてきた。そう  
した海域・海村の歴史民俗文化について漁業制度資料調査で全国から  
収集された「漁場図」に描かれた景観を手がかりに、本研究所の人的資  
源を活用し学際的に研究することが主な目的となる。

期待される成果としては、共同研究会において学際的な検討を経た後、  
研究成果を論文集としてまとめる。また、本研究所が所蔵する漁場図の  
デジタル化を進め、漁場図データベースを制作することで研究資源として  
広く社会に公開する。



第8回 漁場図研究会 公開研究集会(2020年1月)



ファブラボみなとみらい



アイロンを3Dスキャンしたデジタル画像

期間:2019年～ 代表者:道用大介

#### [研究目的]

デジタルファブリケーション機器からアナログ工作機械まで備えた市民工房のことを「ファブラボ(Fab Lab)」と呼ぶ。デジタルファブリケーションとは、3Dプリンターやレーザーカッターなどの機材を活用し、デジタルデータにもとづいたモノづくりをおこなう技術のことである。ファブラボは、単にデジタル機器を備えた施設であるだけでなく、「自分たちの使うものを、使う人自身がつくる文化」を醸成する国境を越えた市民工房ネットワークなのである(「FabLab Japan」Webサイトによる。<http://fablabjapan.org/whatsfablab/>)。

2021年度にオープンした神奈川大学みなとみらいキャンパスの1階のラボには「ファブラボみなとみらい」がある。本共同研究では、ファブラボみなとみらいと協力し、歴史民俗資料の現物ないし実測図面からのレプリカ作成、実物資料の3Dデータ化などを模索しようとするものである。最先端のモノづくりを追究するファブラボと、伝統的なモノを資料とする当研究所が、分野を越えて連携することによって、「ファブラボみなとみらい」のソーシャルcommonsとしての機能は、よりいっそう意義のあるものとなるに違いない。

## 研究拠点 気仙沼大島漁協文庫の管理と活用



大島漁協文庫

期間:2016年～ 代表者:関口博巨

[調査地域]宮城県気仙沼市大島

#### [目的]

本研究所は大学院歴史民俗資料学研究科と協同して、2011年の東日本大震災により被災した気仙沼大島漁業協同組合資料のレスキューをおこなった。そして、その保全活動の一環として、4,000点強の漁協資料を分類整理し、2015年9月に完成した大島漁協文庫にそれらを収めた。

この大島漁協文庫は、単に漁協資料の保全のみならず、本研究所と歴史民俗資料学研究科等の研究拠点になると同時に、地元有志を中心とした「大島漁協文庫の会」により運営・活用され、気仙沼大島の文化振興とそれを発信する拠点となることが期待される。

## 受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業



2023年度調査時の様子

期間:2016～2024年度 代表者:新垣夢乃

#### [研究目的]

東京都三宅村の委託研究として、三宅村郷土資料の調査、公開、保存に関わる事業を進めるため、現地に於いて調査、整理作業をおこなう。具体的には、三宅島郷土資料館が所蔵する民具の調査、整理作業をおこない、資料目録を作成する。文化財の調査、保存態勢の構築が急がれる中で、本調査はその基礎となるものである。

## 受託研究 国立研究開発法人水産研究・教育機構古文書目録作成業務



湯浅町での資料調査(2019年3月)

期間:2001~2019年度 代表者:安室 知

※ただし、2020年度以降、受託研究は休止し、協力関係を継続。

### [研究目的]

1949~1955年にかけて、水産庁が日本常民文化研究所に委託してはじめられた「漁業制度資料調査保存事業」によって、全国の漁業・漁村資料およそ20万点が収集された。その中には、漁業権に関する資料のほかに絵図類なども含まれていた。資料は、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所図書資料館に収蔵されている。同資料の整理・目録化作業は、同法人による委託事業として進められてきたが、現在は休止中である。

目録集の刊行にあたっては、資料群の旧所蔵者宅を訪問して、資料群の伝来に関する諸情報を取材し、あわせて現地研究者にも聞き取りをおこない、資料群の解説を付している。これまで12冊の資料目録と2冊の概要目録を刊行している。

## 受託研究 輪島市・上時国家文書・時國家文書調査業務



輪島市の担当者との打ち合わせ

期間:2022年度 代表者:関口博巨

※ただし、2023年度以降、輪島市との協力関係を継続。

### [研究目的]

1950年、渋沢敬三が能登を訪ねて以来、当研究所と上時国家ならびに時國家との関係は断続的に続いてきた。1982年以降には網野善彦氏を団長とする両時國家の総合的研究が実施された。

2022年には、輪島市より上時国家文書と時國家文書の評価書作成などの業務を受託した。上時国家文書は大部分が県指定文化財となっているが、今回は指定からもれた一部の古文書について評価書の作成をおこなった。また、時國家文書は一括で市指定文化財となっている。古文書目録集を刊行するにあたり、その解題作成もあわせておこなった。

この受託研究は2022年度におこなわれたものである。令和6年能登半島地震の犠牲者の皆様ならびに被災者の皆様には、心よりのお悔やみとお見舞いを申し上げます。

### 2024年 能登地震対応チーム

本研究所は奥能登地域の文化や歴史に早くから注目し、おもに時國家のある輪島市町野地区を中心に継続的に調査を続け、豊かな奥能登から多くの成果を生み出すことができました。そこで今回の震災に対応すべく、所内に「2024年能登地震対応チーム」を設置しました。チームでは、研究所にこれまで蓄積された各種の調査データ・研究資料を改めて整理するとともに、関係機関と連携、協力しながら、被災した史料が適切に保全されるよう尽力する所存です。



1950年の奥能登調査に関連する資料



緊急収蔵展示のポスター

### 共同研究の成果

調査が終了した下記の共同研究は、現在報告書や資料目録などの編集をおこなっています。

#### 共同研究 奥能登の研究

[調査地域] 石川県輪島市

- ・2024~2026年度編集予定  
井池家文書目録

#### 基盤共同研究 二神家・二神島の歴史・民俗研究

[調査地域] 愛媛県松山市二神島

- ・二神家関連資料の整理と文化資源化



岩倉寺文書目録(2019年12月)

島のスケッチ帖 二神島絵画資料集  
(2020年3月)



- ❖ 本研究所は博物館機能を有する研究所として、新たな博物館型研究統合を目指しています。
- ❖ 「常民文化ミュージアム」として2023年3月13日より従来の展示室をリニューアルオープンしました。このミュージアムは、研究活動を通して収集された歴史民俗資料を広く一般に公開し、また共同研究の成果について展示等の博物館活動を通して社会に還元するとともに、学芸員養成や大学教育にも積極的に利活用する場となっています。

## 展示



常民文化ミュージアム

常民文化ミュージアムの常設展示は、研究所を紹介する「常民文化へのアプローチ」にはじまり、「海のくらしと知恵」「布とくらし」「生活の記録」の4つのコーナーに分かれています。また、床面には研究所が出版してきた生活文化にまつわる資料集の対象となった地域を示した日本地図、外壁面には、本研究所が歩んできた100年の歴史年表があります。

### 常設展示



常民文化へのアプローチ



海のくらしと知恵

### 常民文化ミュージアム

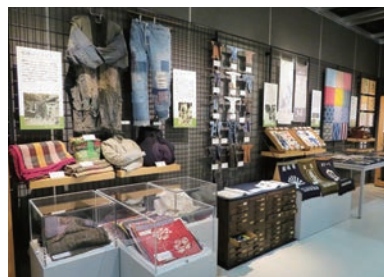
【会場】 神奈川大学横浜キャンパス 3号館1階  
(ミュージアム commons 内)

【開室時間】 10:00～17:00

【閉室日】 日曜日・祝日・大学所定の休日・授業期間外の土曜日

【観覧料】 無料

※最新の開室情報は研究所 Web サイト「常民文化ミュージアム」  
展示ホールミュージアム commons [開館カレンダー] 参照



布とくらし



生活の記録

### 収蔵資料展示

常設展示室内にて、年2～3回、所蔵資料を紹介するケース展示をおこなっています。

#### ● 「湯たんぽ」(2023年7月3日～10月14日)

神奈川県津久井郡城山町(現相模原市)の雑貨屋「中西商店」にて、昭和30～50年代頃に販売されていた「湯たんぽ」を中心に収蔵資料展を開催しました。今回の展示では、「湯たんぽ」の波付きのデザインがどのように登場したのかを追いながら、現在でも私たちのくらしで用いられている「湯たんぽ」を考える機会としました。



登録実用新案の波付湯たんぽ  
(浅井式湯婆)



温泉湯たんぽ(左)と陶器製統制湯  
たんぽ(右)

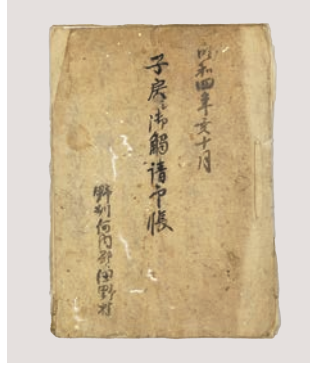


展示風景



## ●「渋沢敬三が集めた暮らしの史料」 シンポジウム「生活世界の史料学」関連展示 (2023年11月8日～2024年2月16日)

2023年12月9日に開催された第27回常民文化研究講座「生活世界の史料学」(p.20参照)の関連展示として、本研究所が所蔵する渋沢敬三が収集した江戸時代～明治時代の古文書・古記録のなかから、さまざまな生業、出産・育児、人身売買など当時の人々の暮らしの一端を知ることができる史料を展示しました。



子辰シ御觸請印帳



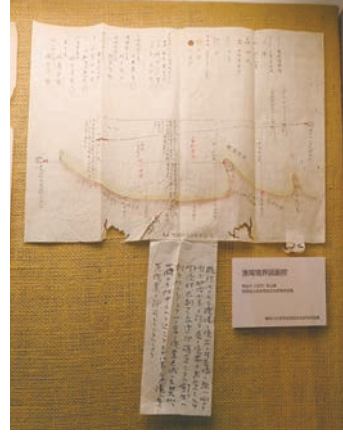
展示風景



お守草紙(部分)

## ●「奥能登の歴史と日本常民文化研究所」 (2024年3月5日～5月31日)

2024年1月1日の令和6年能登半島地震発災をうけて、緊急収蔵品展「奥能登の歴史と日本常民文化研究所」を開催しました。本研究所は、1950年代から、多くの地元の皆様のご協力のもとに、奥能登地域の豊かな歴史・文化について調査・研究をおこなってきました。そこで本展示では、改めて奥能登地域の歴史や文化を考えるきっかけとして、これまでの本研究所の奥能登研究の一端を展示しました。



漁場境界図面控 明治10(1877)年以降



漁業制度資料目録(石川県)1950年ごろ



『時国健太郎家文書目録』全2冊

## 企画展示

企画展示は、年に1～2回、共同研究の成果や貴重なコレクションの紹介などをおこなっています。

### ●「布と衣。刺し子」渡部つとむコレクション (2023年10月11日～11月5日)

2020年より3カ年計画で収集した「渡部つとむコレクション」の中から「刺し子」を中心に紹介したもので、その一部は2021年に横浜市歴史博物館との共同開催展示「布 うつくしき日本の手仕事」において好評を得たものです。今回は山形県庄内地方、青森県津軽地方および南部地方の刺し子が用いられた着物および仕事着を展示しました。



展示会場



庄内地方の刺し子(襦引きソデナシ)



庄内地方の刺し子(サシコジパン)



津軽地方のこぎん刺し

### ●「神大生の部屋—日本常民文化研究所による神大生の研究—」 (2024年3月19日～5月11日)



企画展「神大生の部屋」の入口



製作委員の学生による手書きの壁面イラスト

本研究所が研究対象とする「常民」に現代の大学生を含めたら、どうなるだろうという実験的な企画展を現役の神大生とともに作りました。道具に注目し過去の神大生にも目を向け、現代では手放せないスマホにより暮らしや人間関係がどう変わったのかなどを振り返る部屋になっています。本研究所らしい「スマホ以前の事」というコーナーでは、小さなスマホにどれだけの皆さんの道具が入っているのか、一目瞭然です。



スマホの機能としての道具を紹介



足半と厚底サンダル

● 展覧会の情報は研究所Webサイトにてお知らせしています。



## 所蔵資料

- ❖ 渋沢敬三がアチックミュージアムソサエティを立ち上げた1921年に、9項目の運営方針が決められました。その中に「標本の蒐集、整理、研究、殊に玩具の研究、文献の蒐集（略）」があり、アチックは当初より資料の蒐集を方針としていたことがわかります。その後、さまざまな事情から、渋沢およびアチックの蒐集した資料は、複数の機関に分散、収蔵されました。本研究所では、2021年11月より「常民文化を中心とする資料の収集、保管、展示及び調査研究を行う」ことを事業内容に新設し、アチックより引き継いだ資料から神奈川大学付置後の収集資料まで研究・展示等に活用できるように整備し、次の世代に伝えることを目指しています。
- ❖ 多岐にわたる本研究所の所蔵資料は、整理が済んだものから順に公開を進めており、研究目的での閲覧や特別利用による出版物への掲載および展覧会への貸出に対応いたします。  
※所蔵資料・図書の利用は、21ページをご覧ください。

### 古文書

近世・近代を中心とした史料群です。原史料では、アチック・ミュージアムが収集した生活に関する史料、および二神司朗家文書をはじめとする漁業・漁村関係史料群があります。その他、



二神司朗家文書

各地域で撮影したマイクロフィルム複写古文書も所蔵しています。

### 漁業漁村資料(筆写稿本)

1949～1955年に水産庁の委託を受け、財団法人日本常民文化研究所月島分室にて作成された漁業・漁村関係資料の筆写稿本です。約800文書群(約1,900冊、200字詰原稿用紙約30万枚)を所蔵。現在、ほぼ同一の筆写稿本が、本研究所と国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所図書資料館に所蔵されています。



筆写稿本

### 常民研運営資料

神奈川大学付置研究所となる以前の本研究所における運営に関する資料です。戦前から昭和50年代頃までの歴史学・民俗学・文化人類学などの研究動向がうかがえる資料群です。議事録、日誌、書簡類、帳簿などの資料群は、財団法人解散時に引き継がれたもののほか、時々の研究所運営の中心人物の手元に残されていたものなどです。財団引継資料、宇野脩平資料、河岡武春資料、民族学振興会資料などがあります。

### 絵画資料

アチック・ミュージアムで収集・模写された絵画資料で、鯉絵、『耕稼春秋』、『農具絵図』、『四季耕作子供遊戯図巻』などがあります。また、村田泥牛によって模写された絵引原画約800点を所蔵しています。



『四季耕作子供遊戯図巻』(部分)

### 写真映像資料

- 写真資料  
アチック写真 昭和初期に渋沢敬三らアチック・ミュージアムの同人により撮影された日本・朝鮮・台湾など約8,000点のスチール写真です。  
横浜写真 幕末から明治の横浜の風景、風俗を撮影したステレオ写真と白黒写真に彩色を施した写真です。
- 映像資料  
アチック・ミュージアムの漁村・農村調査にて、昭和初期の庶民の生活や景観を16ミリフィルムに記録したアチックフィルム23作品があります。



アチック写真 興を先頭に進む人々  
(朝鮮/昭和11(1936)年・目録番号:ア-61-12)



アチックフィルム「谷浜」昭和10(1935)年2月

## 民俗資料

### ●製作資料

研究テーマにあわせて製作された資料です。職人による製作技術の記録となる鍛造品工程見本、5分の1に縮小し作成した仕事着のコレクション、船大工近藤友一郎氏による和船模型コレクションなどがあります。

### ●収集資料

実際に使用されていた民具で、衣関係、農・漁・生活関係、生業関係、信仰関係の資料です。神奈川県津久井郡の商家の民具約2,000点他、羽田勇人コレクション(小絵馬2,473点)、米津為市郎コレクション(小裂細工約2,000点)、渡部つとむコレクション(東北衣料アイヌ含む1,283点)などを所蔵しています。



収集資料 小裂きりばめ細工の米袋 収集資料 小絵馬(酒と賭け事を断つ。錠物図)



製作資料 鍛造工程見本



製作資料 和船 菱垣廻船(1/10)模型(近藤友一郎氏製作)

## 所蔵資料のデジタル閲覧

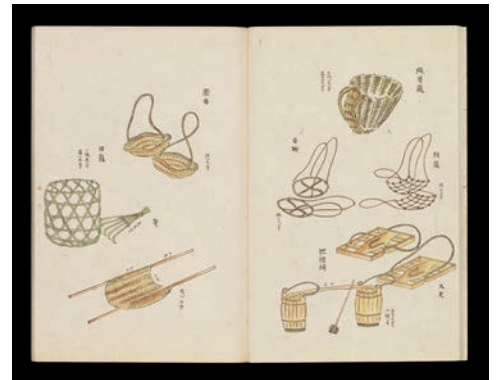
### 「神奈川大学デジタルアーカイブ」

本学 Web サイトにて所蔵資料の一部を公開しています。論文書誌情報や古文書・写真映像資料の画像および動画を閲覧できます。

また、アチック・財団常民の刊行物の一部は、研究所 Web サイトのリンクからも閲覧できます。



デジタル  
アーカイブ



『広島県下農具絵図』

### 「絵画資料デジタルコレクション」

研究所 Web サイトにて下記の絵画資料を閲覧できます。

- 『四季耕作子供遊戯図巻』
- 農具絵図『広島県下農具絵図』『山城丹波農具ノ図』『農具解説群馬県』『和歌山県西牟婁郡農具絵図面』『和歌山県日高郡農具絵図』



絵画資料  
コレクション

## 所蔵図書

### ●図書

戦後の財団法人のころから収集した図書に、神奈川大学付置後、寄贈・交換・購入した図書を加えた蔵書です。おもに地方史・郷土史・民俗学・民族学・水産史・技術史を中心に構成され、総数は約10万冊にのぼります。そのほか、彌永貞三文庫、河岡武春文庫、宮田登文庫、民族学振興会旧蔵書があります。

※図書は神奈川大学図書館 OPAC にて書誌検索ができます。

### ●逐次刊行物

全国の博物館の紀要や各学会の学会誌などの交換により、約2,800タイトルと民族学振興会旧蔵逐次刊行物として1,715タイトルを所蔵しています。



OPAC 検索



図書利用



民族学振興会旧蔵書



❖ 『民具マンスリー』は会員制の月刊誌で民具研究の情報交換を目的として刊行しています。民具を中心とする物質文化研究をテーマとする雑誌の中では最も古い歴史をもっています。なお、2024年5月時点で通巻674号（第57巻2号）までの刊行です。

アチック・ミュージアム創設当初から一貫して、研究対象を民具などの物質文化に据えていたことから、渋谷没後の1968年、当時の財団法人日本常民文化研究所の運営を担っていた河岡武春らにより、4頁のリーフレットから刊行がはじめられました。1981年より、神奈川大学の付置機関となってからも刊行は着実に継続され、現在は月刊24頁となっています。また、本誌の刊行は地域史との関連を重視し、民具研究の拠点としての役割を担っています。近年は誌面とともにYouTubeにて民具を紹介する「民具を語る」の企画制作をおこなっています。

## 入会方法

1. 年間購読会費 3,500円(送料含む)
2. 毎年年度替わりで、4月から1年間。年度途中からの入会もできますが、その場合は当該年度既刊行分をお送りすることでかえらせて頂いております。また、ご入会されると会誌への投稿ができます。なお、投稿規定は、毎年4月号、および研究所Webサイトに掲載しています。
3. 入会ご希望の方は、「民具マンスリー入会希望」と明記の上、氏名・住所・電話番号を記載し、メール、Faxまたは葉書にてお申込みください。ご連絡が届き次第、入会案内と申込書をお送りいたします。
4. 宛先 E-mail: ming-monthly@kanagawa-u.ac.jp Fax: 045-413-4151  
または葉書にて、〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 神奈川大学日本常民文化研究所『民具マンスリー』編集室宛までお送りください。  
お問合せ Tel: 045-481-5661(代)



57巻4号(2024.7)

# 刊行物

## Publications

最新情報は  
公式Webサイトへ



❖ 2022年度に本研究所の紀要である『常民文化研究』が創刊されました。また、所員が企画編集する『歴史と民俗』を年刊行しているほか、共同研究や個別研究に応じて叢書、調査報告書、資料目録なども随次刊行しています。

## 歴史と民俗

1986年に創刊以来、本研究所の研究活動を所員や関係する研究者が、論文・研究ノートなどを通じて紹介する『歴史と民俗』を平凡社の書籍として刊行しています。年に1回の刊行、2024年現在、通号41号となります。25号からは、魅力的なテーマによる特集を所員が企画し、32号からは常民文化研究講座のテーマと連動した特集を組み、さらに37・38号は大小二つのテーマによる特集の構成でした。なお、2025年度の42号からは大幅リニューアルをおこないます。あわせて電子版もスタートさせる予定です。

※ご購入は平凡社へお問合せください。



41号(2024.7)

## 常民文化研究

本誌は、創立100周年記念事業の一環として2023年3月に創刊されました。これまで『歴史と民俗』が紀要の役割も担ってきましたが、同誌のリニューアルにより、本誌が本研究所紀要の役割を引き継ぎます。所員・客員研究員・特別研究員に寄稿を募り、毎号、査読論文、調査活動報告、資料紹介等を掲載する研究成果の発表の場を提供しています。

※神奈川大学学術機関リポジトリにて論文を閲覧できます。



2号 2023(2024.2)

● 『民具マンスリー』『歴史と民俗』『常民文化研究』のバックナンバー(巻号ごとの論文タイトル)は、研究所Webサイトまたは「神奈川大学デジタルアーカイブ」にて検索できます。

100周年記念事業刊行物

古文書修復講座、常民文化研究1～2

共同研究「瀬戸内海の歴史民俗」(神奈川大学日本常民文化研究所編)

二神司朗家文書 中世・近世、論集、二神島 葬送と墓の民俗資料編、島の写真帖1～4、  
二神島 豊田造船所資料集、島のスケッチ帖

共同研究「ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究」(神奈川大学日本常民文化研究所編)

ブラジル日本人入植地の常民文化 民俗歴史編、建築編

※本研究はJSPS科研費15H05172の助成

奥能登と時国家(神奈川大学日本常民文化研究所奥能登調査研究会編/平凡社)

研究編1～2、調査報告編1～3

常民資料叢書(神奈川大学日本常民文化研究所編/日本評論社)1～2

神奈川大学日本常民文化叢書(神奈川大学日本常民文化研究所編/平凡社)1～7

国際常民文化研究叢書(神奈川大学国際常民文化研究機構編)1～15

神奈川大学日本常民文化研究所所蔵資料目録(神奈川大学日本常民文化研究所編)1～6

神奈川大学日本常民文化研究所調査資料目録(神奈川大学日本常民文化研究所編)1～13

輪島市町野地区関係古文書目録(神奈川大学日本常民文化研究所編・輪島市教育委員会発行)1～5

水産総合研究センター所蔵古文書目録

(独立行政法人水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所編)1～11

水産研究・教育機構所蔵古文書目録

(国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所・神奈川大学日本常民文化研究所編)12～14

神奈川大学日本常民文化研究所調査報告(神奈川大学日本常民文化研究所編)9～24

国際常民文化研究機構 共同研究[奨励]調査報告書

(神奈川大学日本常民文化研究所・神奈川大学国際常民文化研究機構編)25～30

神奈川大学日本常民文化研究所年報(神奈川大学日本常民文化研究所編)2014～2025(予定)

神奈川大学入門テキストシリーズ 歴史民俗資料入門1(神奈川大学日本常民文化研究所監修/御茶の水書房)

古文書を学ぶー市川海老蔵の証文からー

DVDブック 甦る民俗映像ー澁沢敬三と宮本馨太郎が撮った1930年代の日本・アジアー

(佐野賢治他編/神奈川大学日本常民文化研究所資料協力/岩波書店)

海と非農業民ー網野善彦の学問的軌跡をたどる(神奈川大学日本常民文化研究所編/岩波書店)講演CD付

古文書の補修と取り扱い 中藤靖之著(神奈川大学日本常民文化研究所監修/雄山閣出版)

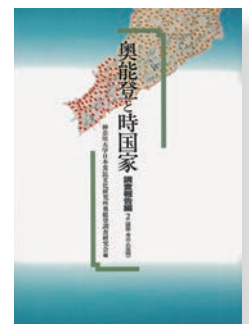
新版絵巻物による日本常民生活絵引(澁沢敬三・神奈川大学日本常民文化研究所編/平凡社)1～5

ビデオ二神島(神奈川大学日本常民文化研究所編/紀伊国屋書店)1～3

●書誌・各シリーズの詳細や最新情報および入手方法は、研究所Webサイトをご覧ください。

●神奈川大学付置となる以前の刊行物は、本研究所内での閲覧が可能です。また、その一部は、神奈川大学デジタルアーカイブ・研究所Webサイトにて閲覧ができます。

●本研究所の刊行物は、各研究機関・博物館等と随時交換し、公の利用に供しています。





❖ 本研究所は、研究成果を広く社会に伝えることも重要な役割と考え、そのための活動として「常民文化研究講座」「古文書修復実習」「民具を語る」を積極的に開催しています。

## ● 常民文化研究講座(シンポジウム)

「常民文化研究講座」は、1997年以来、日本文化研究の領域を活性化させようとする意図のもと、毎年神奈川大学において開催しています。各回、常民の生活や文化、歴史をテーマとして設定し、講演会・シンポジウムで構成しています。



## ● 古文書修復実習

「常民文化研究講座」には、「古文書修復実習」と「民具を語る」の講座を併設しています。「古文書修復実習」では、基本的な3工程である① 記録・整理、② 修理(繕い・裏打ち)、③ 復原(化粧裁ち・製本)に加え、④ 襖などの下張り文書の剥離をおこなっています。



## ● 民具を語る

1974年の民具研究講座より併設の民具実測実習、2015年の民具研究ワークショップを経て2016年度から「民具を語る」研究会として年に1~2回開催しています。『民具マンスリー』と有機的に連携し、編集室が話題のテーマをとりあげ企画・編集をしています。2021年からはYouTubeを用いて民具の紹介をおこなっています。



このほか、本研究所では、所員が神奈川大学KUポートスクエアみなとみらいエクステンションセンターの講座を担当するほか、調査地の自治体や新聞社などと共催で、講演会やシンポジウムなども企画・実行してきました。研究所Webサイトでこうした講演会等も随時紹介しています。

## 2023年度の講座

### 第27回 常民文化研究講座(シンポジウム)

創立100周年記念事業 日本常民文化研究所の100年

「生活世界の史料学」

Researching Historical Materials of the Lifeworld

(2023年12月9日)

■趣旨説明 大川 啓

■基調講演

生活世界と史料読解—被災地でのフィールドワークを例に 大門正克

■報告

『豆州内浦漁民史料』と近世漁村の生活世界 中村只吾

「祭魚洞文庫」にみる近世の出産と育児 関口博巨

和牛の歴史研究と生活世界 板垣貴志

近代の社務日誌から見えるもの 平山 昇

■総合討論



会場風景



発表者との記念撮影

### 第27回 常民文化研究講座

古文書修復実習

(2024年3月10日・11日)

①現状の記録・解体

②修理(繕い・裏打ち)

③復原(化粧裁ち、製本)

④下張り文書の剥離

関口博巨 白水 智 山口悟史 中村 慧 平田茉莉子



裏打ち。和紙を裏から張り補強

### 第27回 常民文化研究講座

民具を語る11(動画配信第6回)

「徳島県立博物館 天然テグス」磯本宏紀

(2023年8月3日より動画配信)

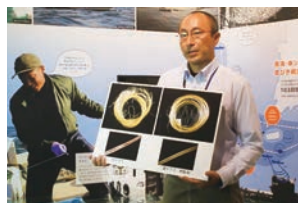
民具を語る12(動画配信第7回)

「徳島県立博物館 阿波晩茶生産用具」磯本宏紀

(2023年12月5日より動画配信)



動画配信



テグスについて



阿波晩茶の茶畑について

● 第1回(1997年)からの過去の講座およびこれから開催する講座のご案内は、研究所Webサイトにて掲載しています。

## 利用案内

研究所の所蔵資料および図書は研究目的での閲覧ができます。

なお、研究所の業務や資料の保護上の理由等により、ご希望に添いかねる場合があります。



利用案内へ

### 日本常民文化研究所

- ・開室時間 ————— 9:00～16:00(12:00～13:00は閉室)
- ・閉室日 ————— 土曜日・日曜日・祝日・大学所定の休日 ※臨時に閉室または開室時間を変更する場合があります。
- ・閲覧座席数 ————— 5席

下記の検索方法にてあらかじめ利用資料および図書をご確認の上、研究所Webサイトのフォームにて事前にお問合せをお願いいたします。

- 所蔵資料の検索——所蔵資料は神奈川大学デジタルアーカイブまたは研究所Webサイトにて資料リストや画像などが閲覧・検索できます。
- 図書の検索——神奈川大学図書館OPACにて書誌検索ができます。

### 常民文化ミュージアム

- ・開室時間 ————— 10:00～17:00
- ・閉室日 ————— 日曜日・祝日・大学所定の休日・授業期間以外の土曜日
- ・観覧料 ————— 無料 ※臨時の開室・閉室がありますので、展示ホールミュージアム commons【開館カレンダー】にてご確認ください。



開館カレンダー

### 〈横浜キャンパスへのアクセス〉

- 東急東横線「白楽駅」または「東白楽駅」下車 徒歩13分  
※駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください。
- 横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用
  - 1番乗場(36系統) 菅田町または緑車庫前行  
「神奈川大学入口」または「六角橋西町」下車
  - 1番乗場(82系統) 八反橋または神大寺入口行  
「神奈川大学入口」または「六角橋西町」下車

日本常民文化研究所／9号館1階  
常民文化ミュージアム／3号館1階(ミュージアム commons内)  
資料整理修復室・歴史資料・民俗資料収蔵室／3号館B2階  
非文字資料研究センター／28号館2階



### 公式Webサイト(最新情報はこちらへ)

- 研究活動、講座、研究会、展覧会情報、刊行物の発行など、研究活動の最新情報をお知らせします。



日本常民文化研究所 Web

### 公式Instagram・Facebook・X・YouTube

- 日本常民文化研究所、非文字資料研究センターの公式アカウントです。
- 日本常民文化研究所 YouTube チャンネルでは、「民具を語る」などの動画配信をおこなっています。



Instagram



Facebook



X



YouTube

### 神奈川大学デジタルアーカイブ

- 所蔵資料の閲覧・検索および本研究所で刊行した論文や書籍を検索できます。



神奈川大学デジタルアーカイブ

本誌掲載の情報は2024年6月時点のものです。

神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
TEL 045-481-5661(大学代表) FAX 045-413-4151(直通)  
<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>  
非文字資料研究センター <http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

2024年8月

